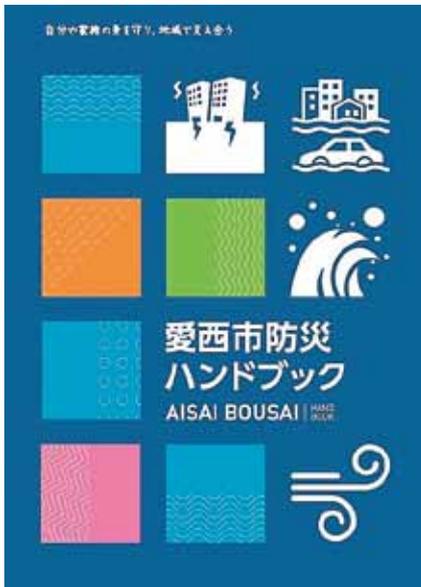


# 備蓄食料 市民に十分に配給できるのか

真野 和久議員

想定を超えた場合は国県の物資支援等で  
企画政策部長



▲愛西市の新しい防災ハンドブック

**問** 南海トラフ地震を想定した場合の市の避難者推計が約1万6千人。避難所避難者が9千人。そこからアンケートを踏まえて食料備蓄を5400人分と答弁があったが、この考え方で十分な市民への配給はできるのか。

**答** もう少し余裕を持ち備蓄する必要があるのでは。避難所避難者数9千人の60%に対し、2食3日分の3万2400食。家庭で備蓄してもらう

**問** 南海トラフ地震など広域災害では、物資支援が機能するまでにかかなり時間がかかるのでは。

**答** 各自自治体と協力し、備蓄食料等についても協

の最大の対策だ。賞味期限切れによる入れ替へのコストや置き場所の問題などで、備蓄を増やすのが厳しい。想定を超える場合は、国、県からの物資支援、企業との協定等で対処していきたい。

**問** 避難所の収容人数は。屋内テント設置数の検証は。

**答** 一時避難であれば約8万5千人。短期の避難で約4万2千人。長期の避難で1万9千人。コロナ対策避難で約1万4千人の避難が可能だ。テントの設置数の検証は、早急

に実施していきたい。

議、連携していかねばならない。市民の避難状況等の想定の中で、しっかりとした備蓄を検討し、計画的に維持することが必要だ。

**問** 自主避難の場合にコミュニティセンターや公民館を活用してはと提案した時、地域と協議をして検討しますと答えていたが進捗は。

**答** 市江小学校区コミュニティ推進協議会、市江小学校区自主防災連合会、愛西市の3者で自主避難者受け入れ施設の覚書を締結している。他地域への拡大は自主防災会の協力が得られれば、協議を進めていきたい。

**問** 今回の防災ハンドブックのハザードマップで、津島高校が緊急避難場所になっている。佐織地区の町方地域では、高い建物や広い場所がない。津島北高校を指定避難場所にするよう検討しては。

**答** 愛西市と隣接している地域でもあるので、今後検討していきたい。